

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26420613

研究課題名(和文) アジア大都市の歴史文化による都市再生 社会経済組織と文化遺産の保全に着目して

研究課題名(英文) A Study on Urban Regeneration in Asian Large Cities: Focusing on Conservation of Social Tissues and Cultural Heritage

研究代表者

鈴木 伸治 (Nobuharu, Suzuki)

横浜市立大学・都市社会文化研究科・教授

研究者番号：80272368

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：アジアにおける都市保全においては、有形・無形の遺産に加え、その境界を特徴づける固有の職業構成や人口構成等の「社会経済組織(social tissues)」が都市において果たしてきた役割を評価し、それらを一体として捉えることが不可欠である。そのような認識のもと、台北・ハノイ・ペナン・バンコクのアジアの4都市の歴史地区を対象に調査を行った。その結果、地域の社会経済状況の変遷、社会経済組織の変遷、および両者の相関、有形・無形の遺産の保全状況、社会経済組織を組み込んだ都市保全のための制度設計にかかる重要要因と各地域で講じられているそれら重要要因に対する多様なアプローチ方法を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Recognizing that urban conservation in Asia requires the comprehensive perspective with the consideration on the roles of their social tissues as well as the significance of tangible and intangible heritage, the study took four historic areas in Asian cities; Taipei (Taiwan), Hanoi (Vietnam), Penang (Malaysia), and Bangkok (Thailand). The on-site survey at four cities including interviews and questionnaire survey gave the following findings in every city; 1) the clarification of local socio-economic transition, transition of social tissues, and the interrelationship between those two transition process, 2) the state of conservation of tangible and intangible heritage, 3) essential factors for establishing the urban conservation system that accommodates social tissues, and varied approach to those factors taken in each area.

研究分野：都市計画・都市デザイン・歴史的環境保全

キーワード：社会経済組織 文化遺産 都市保全 歴史的市街地 伝統産業 アジア 社会変化 コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年のアジアにおける都市保全の状況

近年、経済発展を背景に、アジアの大都市は急激な都市化を経験しており、社会経済状況が大きく変化している。これらの都市の旧市街地には開発から取り残されるところも多く、疲弊した地区の活力を取り戻す「都市再生」は重要課題となっている。旧市街地再生の一環として有形・無形の都市遺産保全の取組みはみられるものの、こうした取組みの中には、物理的側面のみでの保存やテーマパーク型の保存に陥り、その境界の本質的部分を失ってしまう例も少なからずある。有形・無形の都市遺産には、その境界を特徴づける固有の職業構成や人口構成等の「社会経済組織 (social tissues)」が重要な役割を果たしており、アジアの都市の本質を継承するためには、この社会経済組織の都市における機能に関する十分な認識と配慮が不可欠である。

例えば、アジアの旧市街地の中には、卸・小売業者が地区の発展を担い、地域固有の雰囲気や社会システムを形成してきたところも多い。しかし、人々の生活様式の現代化は、そうした伝統的な産業従事者を時代の変化の中で置き去りにしてしまう可能性も孕んでいる。従来「歴史的環境保全」の対象には入らなかったこうした社会経済組織を都市の個性を形成する本質的部分として、都市保全の重要な対象に位置づけ、都市再生に取り入れることは、アジア大都市の今後の都市政策における重要な課題である。

(2) 既往研究

アジアにおける都市保全に関する研究としては、有形・無形の遺産それぞれに着目した調査研究、歴史的環境保全の東アジア諸都市間の制度比較研究等があり、個別事例の状況把握と課題抽出、法制度の把握などが行われてきた(浅野聡(1994)日本及び台湾における歴史的環境保全制度の変遷に関する比較研究 文化財保護関連法を中心にして 日本建築学会計画系論文集 462、pp.137-146; 内海佐和子(2012)観光地化が伝統的町家の居住空間へおよぼす影響 ベトナムの世界遺産・古都ホイアンの場合、学苑 859, pp.63-77、等)。しかしながら、遺産保全と都市再生について、地域性を担う人・産業・組織に着目しながら、東・東南アジアの複数都市の取組みを横断的に捉えようとするものはほとんどみられない。

経済発展と保全の両立の観点では、過度の観光地化が地域の固有性や人々の生活にもたらす影響を扱う研究や持続可能な観光をテーマとする研究等がみられるが、多くは現象や現況の記述・整理にとどまっている。アジア大都市の社会・経済の持続可能性と保全の両立を検討するうえでは、地域の伝統的経済活動とも密接に関わる社会経済組織を、都市再生と保全をつなぐ重要な主体と位置づけて論じることが不可欠である。

(3) これまでの研究状況

研究代表者である鈴木伸治は、横浜市等において、歴史保全と都市再生を連動させる取組みに研究・実務の両面から関わっている。また、「アジア諸都市における歴史文化の保全」をテーマにアジア各国の研究者と研究交流を続けており、特に2012年からは、バンコク、ペナン、ハノイ、台北を含むアジア9都市の都市保全事例を紹介する出版企画を推進している。2013年5月31日~6月2日に開催したその研究会において、「アジアの都市では急速な経済発展により都市が急速かつ大胆に更新され、都市のアイデンティティが失われつつある」という喫緊の共通課題が浮き彫りになり、本研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

上記のような背景を踏まえ、以下を目的として研究を実施した。

(1) アジア大都市における歴史と文化を活かしたまちづくりについて、その境界を特徴づける職業従事者や住民組織などの「社会経済組織」に着目し、これらの活動と都市再生を結びつける仕組みを検討すること。

(2) 歴史的環境保全の制度が発展段階にあるアジア大都市において、社会経済組織を有形・無形の遺産と一体のものとして捉え、都市再生に組み込む視点を発信することで、その地区の本質を残しながら都市再生を図る制度の検討・構築へ貢献すること。

3. 研究の方法

(1) ケーススタディ

まず、アジアの4都市(ハノイ・バンコク・台北・ペナン)の歴史地区を取り上げ、ケーススタディを実施する。各地区について、文献調査、ヒアリング調査(行政関係者、専門家、NPO/NGO、コミュニティリーダー等の異なる立場のステークホルダーを対象とする)、産業従事者に対するアンケート調査を行い、地域の社会経済状況の変遷、社会経済組織の変遷、および両者の相関、有形・無形遺産保全の状況、を明らかにする。アンケート調査は、各地区の中で伝統的に商業活動が行われてきた通りを調査対象の通りとして設定し、実施する。

(2) 総合的考察

ケーススタディの成果を踏まえ、社会経済状況や保全の段階が異なる4事例の分析を通して、アジア型都市再生・都市保全に寄与する制度設計に関する重要要因について検討し、社会経済組織を組み込んだ都市再生手法の検討を行う。

4. 研究成果

(1) ケーススタディ

台北(2014年8月、12月)

台北市の伝統的な商業街である大稻埕迪

化街を対象に、特に歴史的環境保全のツールとしての TDR(容積移転)に着目して調査を行った。

ヒアリングは、台北市の都市計画部門のうち都市發展局と都市更新処の行政担当者、遺産保全に取り組む NGO である台湾歴史資源經理学会の秘書長、実務者、対象地区での店舗経営者といった多様な主体を対象に行い、迪化街保全のための取組みの全容や課題、TDR の仕組みと運用実態等を把握した。また、研究協力者のサポートのもと、通りの全ての建物について、階数、間口幅、業種、歴史的建造物としての指定の有無、各階用途等を記録した。迪化街は急速な変化の只中にあるが、このようなある一時点を記録したインベントリーは今後、保全と変化を検討・検証していくうえで重要な基礎データになると考えられる。

ヒアリングを通じ、大稻埕地区の TDR については、歴史保全の物理的側面において大きな成果をあげている一方で、移転容積や容積ボーナスで収益を得た所有者が流出する傾向がある状態が明らかになった。TDR 申請者の多くは裕福な商業者であり、経済的困窮がその理由ではなく、歴史的建造物での生活よりもより現代的な生活を求めた転出である。結果として残された空き家・空き店舗は、行政寄付により再活用されている事例もあるものの、新しい産業の流入も増加しており、過度な観光化も危惧されている。台北市都市發展局では、観光地ではなく生活文化圏として再生したいという意向が聞かれ、今後は市場性のコントロールが必要であることが指摘できる。

ハノイ(2015年8月、9月)

ハノイ旧市街は伝統的に同業種がひとつの通りに集まる同業者町であり、各通りにはそこで扱っていた商品の名前がつけられている。この約 100ha の広がりをもつ地域において、第 1 級保存地区内のハンプオム通り、および旧市街を南北に走るメインストリートであるハンダオ通りを調査対象地区として設定し、特に、地区を特徴づける産業の変化の把握に焦点を当てながら、現地調査を行った。

ヒアリングは、両通りのコミュニティリーダー、住民、店舗経営者、ハノイ旧市街管理委員会副リーダー、ベトナム建築家協会副会長、コミュニティアーキテクト、現地専門家に対して実施した。アンケート調査は、研究協力者とその学生のサポートのもとで行い、ハンダオ通りで 57 件、ハンプオム通りで 38 件の回答を得ており、地域の産業の変遷や産業従事者の発展と保存に対する見解という貴重なデータを得ることができた。その他、町並みの記録として、全戸の写真撮影・業種調査、ハノイの屋外空間を特徴づける路上でのアクティビティの様子のマッピングを行った。

特に住民へのインタビューからは、ハノイ旧市街は、フランス植民地時代、対仏独立戦争(1945~1954)、ベトナム戦争(1960~1975)、中越戦争(1979)、ドイモイ政策開始(1986)等の政治的転換期とともに変化を続けてきたこと、またそれゆえに、地域の歴史が公平かつ正確な形で住民の中に残されておらず、かつ、先祖から続くような居住歴の長い住民が必ずしも多くないことを窺い知ることができた。

また、住民はよりよい住環境を求めて新しい建物を好む傾向が強く、歴史保全という考え方は住民の間には浸透していない様子も窺われた。一方で、居住歴の長い住民は地域への愛着や友人関係を口にしており、そのことは、今後住民参加型の都市保全を進めていくうえでの手がかりになると考えられた。

ペナン(2016年2月、3月)

2008年にユネスコの世界遺産に登録されたペナンのジョージタウンにおいて、世界遺産地区の中でも観光客が最も集中する通りのひとつであるアルメニア通り、および同通りと区画を構成する裏手のアチェ通りを対象地として調査を行った。ジョージタウンでは、都市の文化的多様性を体現していた住民の流出がひとつの課題となっていることから、商業活動の現状・変遷のほか、不動産所有の状況把握も重点的に試みた。

ヒアリングは、政府機関のジョージタウン世界遺産法人、遺産保全の NGO であるペナン・ヘリテージ・トラスト、文化遺産保存に関わる基金でありコンサルタントである Think City、子どもを対象とした文化教育を行う NGO である Arts-ED、民間の修復建築家、民間プランナー、地域住民、元ペナン市建築局職員のドイツ人アドバイザーを対象に実施した。アンケート調査は、研究協力者とその学生のサポートのもと、アルメニア通りで 60 件、アチェ通りで 24 件の回答を得ることができた。

ヒアリングでは、ジョージタウンの遺産地区としての都市構造や様相、人口構成の変化の要因として 3 つの契機があったことを確認した。ひとつは 2000 年の家賃統制令の撤廃であり、もうひとつは 2008 年の世界遺産登録である。2000 年以降の家賃上昇は、周辺地区での低コスト住宅の建設とも相まって、旧来の住人が地域を出ていくきっかけとなっていた。一方、後者の世界遺産登録は、家賃統制の影響により空き家になったところに、人やお金が入ってくるきっかけになっていた。ただし、2008 年以降の人とお金の流入は、転出した人が戻ってきたというよりも、むしろ、世界遺産のステイタスにビジネスチャンスを見出した投資や観光産業の流入の性格が色濃く、また、この際の人とビジネスの出入りが、伝統産業の継承に大きく影響していた。

都市の変化の 3 つ目のきっかけは、2012

年から始まったストリートアートやアイコンロードアートであり、これがジョージタウンの訪問者数や訪問目的にきわめて大きな影響を及ぼしていることが明らかとなった。

地域の社会経済組織については、家賃統制令の撤廃により家賃が大幅に上昇し住民が3分の2以下に減ったにもかかわらず、伝統的な祭りは今年間400件以上が行われており、地区外に転出した人々もこの祭りのためには毎年戻ってきている、地元の人々はスターバックスより伝統的なコピティアムを好むといった実態がわかり、都市の外観の変化や人口構成の変化と人々の生活様式や慣習の変化とは必ずしも比例して進んでいるわけではない様子も知られた。

バンコク(2016年12月、2017年3月)

バンコク歴史地区の中の伝統的な商業地区であり、ワットポーや王宮といったバンコク最大の観光スポットに隣接するターティエン地区、ターチャン地区を対象として調査を行った。特に重点をおいたのは、1)時代の進展に伴う社会変化、2)1990年代に作成された地域コミュニティの強制移転を前提とするマスタープランとそれに対応する形で行われた保全プロジェクト、3)観光の3点が、地域の伝統的商業、コミュニティ、地域固有の限界雰囲気にとどのような影響を与え、変化を起こしたか、また、そうしたさまざまな事象に対し、地域と人々がどのように応じてきたか、といった点である。

ヒアリングは、王室財産管理局の保全管理部門職員、ターティエン地区のコミュニティリーダーと店舗経営者、現地専門家に対して実施した。アンケート調査は研究協力者とその学生の協力のもと、ターティエン地区で41件、ターチャン地区で14件の回答を得ることができた。

調査からは、地域保全のアプローチとして、コミュニティの維持が第一に考えられており、そのためには、伝統的な商業活動も社会の変化やニーズに適合するよう変化させていく工夫が必要であると考えられていること、伝統的な商業地区・マーケットはその機能を維持していくことが重要であるという認識のもと、商業を成り立たせるためにマーケティングの視点も重視されていること等が明らかになった。さらに、人々に長く住んでもらうための賃料設定・ローンの仕組みやショップハウス内部の改変の様子、商業地区としての特性を維持するための用途規制の仕組みについても知見を得ることができた。

(2) 総合的考察

具体的な地区の事例調査を通し、社会経済の発展に伴う価値観や生活様式の変化が避けられない中で、変化をいかに受け止め、何をいかに継承するかということが、アジア諸都市の共通課題であることが改めて浮き彫りになった。いずれの都市でも、人間の営み

を維持し、都市としての新陳代謝を続けながら保全するということが考えられており、それぞれにおいて、アプローチ方法は異なっていた。

失われつつあるものをいかに継承するかという方策については、ジョージタウンでは、伝統産業の保護・継承策として若者と伝統技術者を結びつけるプログラムが行われる一方、すべてを凍結的に残すことはできないという現実的判断のもと、悉皆的に記録をとるプロジェクトが行われており、一つの都市においても、段階に応じた多様なアプローチをみることができた。

保全において何を重視するかという点においては、コミュニティの維持を重視し、商業のやり方もマーケティングを取り入れながら現代的なものに変えていく必要があるとするターティエンの事例は、方針として明確なものであった。TDRの仕組みにより歴史的建造物は残ったものの、従来の住民の転出がみられるようになっている大稲埕とは対象的である。

一方、法制度やプログラムが整備されたとしても、都市保全の取組みが継続的に行われるかどうかは地域コミュニティに依存する部分が大きく、コミュニティが地域の本質的価値や場所らしさに意識的であり、愛着をもっていることが重要な要素になる。しかし、国境を越えて、あるいは国境の中で人の移動が自由に行われる現代では、「コミュニティ」をどう捉えるか自体が課題となる。

特に、多文化性への評価が世界遺産登録の根拠のひとつであるジョージタウンでは、旧来のコミュニティが崩壊し、そこに移民が時には短期滞在型で入ってきており、保全を進めるうえでの問題として認識されていた。旧来のコミュニティに固執するのではなく、新しく入ってきた人々をコミュニティに取り込み、地域に愛着をもってもらえるように誘導するというような発想の転換も必要になってくると考えられる。

その点、ターティエンでは、新たに地域に入ってくる人々に対しては、コミュニティ組織がコミュニティのルールに従うことを求めているといったローカルな取組みがとられていた。

以上のように、本研究では各都市固有の取組み等の知見を得ることができた。都市ごとにおかれた環境が異なる中で、単純な比較や方策の援用はできないものの、こうした知見をアジア諸都市間で共有しておくことは、各都市の今後の取組みや施策の検討に有用である。その点において、今回の事例都市4都市に、日本国内2都市(東京、横浜)、アジア3都市(マカオ、マカティ、仁川)を加えた全9都市の都市保全事例を集めた書籍を刊行できたことは、本研究の大きな成果である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

柏原沙織・楊惠亘・鈴木伸治・窪田亜矢「台北市大稲埕における歴史保全ツールとしての容積移転の運用とプロセス - 容積送出敷地の歴史的環境に与える影響に着目して」『日本都市計画学会論文集』、50(3)、pp.480-487、2015(査読有)
DOI10.11361/journalcpj.50.480

[学会発表](計 4 件)

Mariko Fujioka, Saori Kashihara 'A Study on the Transition of Commercial Activities in Hanoi Ancient Quarter -Historic Urban Conservation in Asian Cities-', The 7th IACSC International Symposium, Universiti Sains Malaysia (Penang, Malaysia), 2016.9.6

藤岡麻理子・柏原沙織・鈴木伸治・窪田亜矢・西村幸夫「ハノイ 36 通り地区ハンダオ通りにおける商業活動の変化と現状 - 社会経済組織に着目したアジア大都市の歴史地区保全に関する研究 その 1 -」, 2016 年度日本建築学会大会(九州)学術講演会、福岡大学(福岡県福岡市)、2016.8.26

柏原沙織・藤岡麻理子・鈴木伸治・窪田亜矢・西村幸夫「ハノイ 36 通り地区ハンブオム通りの商業活動の変遷と現状 - 社会経済組織に着目したアジア大都市の歴史地区保全に関する研究 その 2 -」, 2016 年度日本建築学会大会(九州)学術講演会、福岡大学(福岡県福岡市)、2016.8.26

Saori Kashihara, Hui-Hsuan Yang, Nobuharu Suzuki, Aya Kubota 'Research on The Process of Historical Conservation in Dadaocheng, Taipei Focusing on the Actors' Roles', The 6th IACSC International Symposium -Urban Planning Unit Session- Session III "Historic Urban Conservation in Asian Cities", Yokohama Port Opening Memorial Hall (Yokohama, Kanagawa, Japan), 2015.9.12

[図書](計 3 件)

鈴木伸治編著『都市の遺産とまちづくり アジア大都市の歴史保存』、春風社(2017年8月刊行予定)

Nobuharu Suzuki ed. (2017) The Frontier of Urban Heritage Conservation in Asian Cities, Global Cooperation Institute for Sustainable Cities,

Yokohama City University、210p

柏原沙織・楊惠亘・鈴木伸治(2017)「保全型アーバンデザインから創造都市戦略へ 台北」『都市経営時代のアーバンデザイン』(西村幸夫編、学芸出版社、224p)、pp.140-154

[その他]

シンポジウム開催

国際シンポジウム「アジアの都市計画をめぐる 3 つの対話」(横浜市開港記念会館 2015.9.12)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木伸治 (SUZUKI, Nobuharu)
横浜市立大学・都市社会文化研究科・教授
研究者番号: 80272368

(2) 研究分担者

窪田亜矢 (KUBOTA, Aya)
東京大学大学院・工学系研究科・特任教授
研究者番号: 30323520

柏原沙織 (KASHIHARA, Saori)
横浜市立大学・都市社会文化研究科・客員研究員
研究者番号: 00636384

楊惠亘 (YANG, Hui-Hsuan)
横浜市立大学・都市社会文化研究科・客員研究員
研究者番号: 80727983

藤岡麻理子 (FUJIOKA, Mariko)
横浜市立大学・グローバル都市協力研究センター・特任助教
研究者番号: 40724539

(3) 研究協力者

ヨングタニット・ピモンサティエン
(Yongtanit Pimonsathean)
タマサート大学・建築計画学部・准教授

王維潔
(Vicky Wong)
台湾歴史資源經理学会・事務総長

レ・クイン・チー
(Le Quynh Chi)
ベトナム建設大学・都市計画学部・講師

バダルディン・モハメド
(Badaruddin Mohamed)
マレーシア科学大学・建築計画学部・教授